

4月26日

## 情報モラル研修会

10連休を前に、ネットで悲しい思いをする生徒や、危険に自ら近づく生徒出さないために、「情報モラル研修会」を実施しました。講師として、瑞浪中学校の酒井教頭をお呼びしました。



いきなり「1813人」という数字を示した酒井教頭。この数字は、平成29年の犯罪被害児童生徒数です。もちろん数として挙がっていない児童生徒もおり、現代のゆゆしき現状を推し量ることができます。そんな緊張感から研修会は始まりました。

ネットの被害で失うものは、「信頼」「金」「友人」「時間」そして「命」。生徒たちの気もちがより引き締まります。ネットの世界に潜んでいる危険性について、時にはユーモアを交えながら、時には声を大きくして訴えながら酒井教頭は話してくださいました。

「1日2時間ネットに時間を費やすとして、1年365日で730時間となります。これは1年間学校で受ける授業時間と変わらない。」

ネットに費やす時間が問題のように思えますが、問題の本質はネットに多くの時間を費やしてる本人の価値観や意思の弱さです。どこかでブレーキをかけて生活しないと、転落の危機は避けられないと感じました。そういう人間には相手のことを考える余裕などないことでしょう。

ネットの世界に潜む危険性については、やはり本人の強い意志と、保護者の適切な見届けが必要です。そんなことを気付かせてくれる研修会でした。

